OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	中国の環境汚染に関する分析と考察 : 沿革,現況及びその課題
Author(s)	北川, 秀樹
Citation	大阪大学, 1999, 博士論文
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.11501/3155523
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

氏名	北川秀樹（きたがわひでき）
博士の専攻分野の名称	博士（国際公共政策）
学位記番号	第 14772 号
学位授与年月日	平成11年3月25日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当 国際公共政策研究科比較公共政策専攻
学位論文名	**中国の環境汚染に関する分析と考察 ——沿革，現況及びその課題——**
論文審査委員	（主査） 教授 伊藤 公一 （副査） 教授 森本 益之　教授 床谷 文雄

論文内容の要旨

今日，中国では産業型の公害に加え，生活水準の向上に伴う都市生活型の公害が深刻となっており，大気，水，廃棄物を中心に環境汚染が激しくなっている。また，近年エネルギー消費を原因とする地球温暖化などの地球環境問題が人類にとって脅威となりつつあるが，経済発展を第一とする中国にとっても看過できない大きな課題となりつつある。

本論文は，このように複雑さを増しつつある中国の環境問題を沿革，汚染の現況，法制度，意識の面などから総合的に分析し，中国の環境問題の解決にとって何が課題となっており，どのような解決方策が有効であるかを考察したものである。

中国の環境問題については，従来，環境の状況に関する自然科学的あるいは技術的な面からの分析，経済発展と環境保護との関係，環境法の内容，環境意識などそれぞれ各個別分野での研究や報告は比較的多いが，これらの側面を相互に関連したものととらえ，総合的に論じたものは見あたらない。本論文は中国の環境問題を総合的，多角的にとらえ分析，考察したものである。

論文の構成としては，第1章で中華人民共和国建国後の環境保護を巡る歴史について概観した後，第2章で中国の大気，水質，廃棄物，エネルギー消費など各分野の環境の現況を公表されている資料を基に，日本との比較も交えながら検証した。第3章では，環境問題に対する国の政策，立場，法律の整備状況，環境管理のために設けられた各種制度，環境行政の組織，環境汚染に係る紛争，財政等の実態を検討し，制度的にはかなり整いつつあるものの，十分に機能していない状況を明らかにした。さらに第4章では，公表されている資料により住民，青少年，企業，政府職員の別に環境保護に関する意識を探った。第5章は以上の事実を裏付けるために，本年8月に訪中し北京で行った中国の研究者，実務家，日中友好環境保全センターの職員に対するインタビュー調査の結果を記載した。ここでは，現在は中国政府が経済発展を第一としているため，環境保護が十分に重視されていない実情が明らかになった。

第6章では，環境問題の特徴と課題として，進む環境汚染，資金不足，経済至上主義と地方保護主義，低い法律管理レベル，低い環境保全意識，不十分な情報公開を指摘し，最後に，制度の変更，技術の革新，自然エネルギーの活用，価値観の転換に分け若干の政策提言を行った。

論文審査の結果の要旨

中国における環境汚染が深刻であることは，わが国の酸性雨についてその影響が語られるほどに重大である。中国はその人口，領土などが巨大であるがゆえに中国の環境問題は，ひとり中国だけではなく，世界的な問題である。

一国の環境問題を正確に把握するためには，環境汚染の状況の自然科学的な分析，経済発展の程度や産業構造，環境破壊に対する法制度とその政策，加害者としての企業および被害者としての住民の意識等々，さまざまな側面から総合的，多面的な考察，検討が必要である。従来の中国の環境問題に対する研究は，これらの一面について考察したものが若干あるのみで，当論文のように多角的に論述したものは殆ど見当たらない。

すなわち，当論文は，第1章において中華人民共和国が誕生して以来現在に至るまでを6期に分けて環境保護に関する歴史を瞥見し，第2章において大気，水質，水資源，森林資源，廃棄物，エネルギー消費など，分野ごとに現在の状況を資料に基づいて丹念に精査すると共に，郷鎮企業にまつわる問題や住民の健康被害を統計資料を用いて論じている。第3章においては環境問題に対する国の政策，法の整備の沿革と現状，環境管理に関する主要な8つの制度を始めとする種々の法制度，行政の対応とその機関，環境汚染にかかる紛争の行政争訟および民事争訟，財政上の諸問題など，中国の現在における国政的側面を論述し，第4章においては公表されている中国側および日本の研究者による意識調査をもとに，中国における一般住民，青少年，企業，政府職員の環境問題に関する認識や思考様式などをグラフと数値を用いて簡明に提示している。そして，第5章においては上記のことを裏付けるために筆者自身が昨年（1998年）8月に北京に赴いて実施した研究者，実務家，日中友好環境保全センター職員といった環境問題に関する中国における第一線の人々に対するインタビュー調査の結果を報告・検討しており，第6章においては総括する形で中国が環境問題を解決するために抱えている多くの課題，例えば資金の不足，経済至上主義，地方保護主義，低い法管理体制や環境保全の意識，不十分な情報公開などを指摘し，さらに改善に向けて広く制度面，技術面，資金面，意識面などについて，それぞれ政策提言を行っている。

以上のように，当論文は，研究資料や文献が少ないなか，また国内事情から情報公開も限定されているという現状において，中国の新聞や雑誌の非常に小さな記事をも見逃さず，中国の環境問題を多面的に考察，検討したものであって，従来にない斬新な先行的研究として高く評価されうる。

以上によって，北川秀樹氏の当論文は博士（国際公共政策）の資格を満たすものと判定される。